



バクマイ病院での足こぎ車いすの説明会。医師やリハビリ担当者のほか、周辺の病院長、保健省の職員も参加

「自分で動けるなんて信じられない!」半身まひの女性も車いすに乗ってびっくり



ホーチミンでも、障害者団体のメンバーに足こぎ車いすの乗り方についてデモンストレーション



ないが、そこにも問題が。大きな病院ではリハビリが行われているものの、地方の病院では人材や設備が足りない。そこで、足こぎ車いすを移動手段としてだけではなく、リハビリのためにも使ってもらいたいと考えたのだ。

しかし、当初はベトナムでビジネスを展開する「ツテ」がなかった鈴木さん。そこでタッグを組むことになったのが、一般社団法人 Te:terra の渡邊さやかさんと日本テピア株式会社の今井淳一さんだ。



「ベトナムの人は新しいものにも積極的に挑戦してくれます」と鈴木さん(左端)。患者さんの試乗に付き添う

東北大が  
15年の研究成果を生かして開発した  
足こぎ車いす



ベトナム  
from VIET NAM

# 足こぎ車いすで 踏み出す一歩

ケガや病気からの回復に欠かせないリハビリ。しかし、ベトナムの医療現場では設備も人材も十分でなく、障害を持つ人々の社会復帰が難しい。

東北発のベンチャー企業 TESS は、足こぎ車いすの普及を通じて、この国の未来を切り開く。

## 新しいコンセプトの 車いすを広めたい

「えっ?! すごい! 自分で動ける!」

「次は私にも乗らせて!」

ベトナムの首都ハノイにある国立バクマイ病院。リハビリセンターの一室では、車いすの試乗が行われていた。半身にまひがある人、片足が不自由な人もいるが、すぐに乗りこなす、スイスイと部屋中を動き回る。

乗ると誰もが笑顔になれる車いす。その形は、車輪を手でこいだり電動で動かす一般的なものとは違う。少しでも足先を動かせる力があれば、半身がまひした人でもペダルをこげる優れもの。これは、東北大学が15年かけて開発した足こぎ車いす「propha」。

nd」だ。

「赤ちゃんの脇を支えて足を床に付けると、無意識に、歩こうとばたばたさせますよね。その人間の反射的な力を利用してペダルが回ります」。そう話すのは、この車いすを製造販売する株式会社 TESS の鈴木堅之代表取締役だ。

足こぎ車いすを海外で普及させたい。そう鈴木さんが思ったのは、ベトナムの障害者を支援する知り合いから、彼らの現状を聞いたことがきっかけだった。社会的地位が低く、仕事に就くことも難しい。自立できず、家族に頼りきりだったり、施設にずっと入れられたままだったり。:「その話を聞いて、なんとかできないかと思いました」。

彼らが社会復帰するには体の機能を回復させるリハビリが欠かせ

3人をつないだキーワードは、東北。東日本大震災発生後、リハビリに使ってもらおうと避難所に足こぎ車いすを送る活動をしてきた鈴木さん。渡邊さんも被災地で中小企業支援をしていたことから意気投合した。そして、ベトナムでビジネスを始めたいので協力を求む! という渡邊さんの呼び掛けに応じたのが、今井さんだった。「震災時に中国に滞在しており、被災地支援ができなかった。東北の企業と協力することで、間接的にも復興に貢献したい。私はベトナムに滞在した経験があったので、現地での調整などに力になれるのではと考えました」と話す。今は3人でビジネスプランを練り、現地で調査を進めているところだ。

## リハビリを 将来への希望に

まずはベトナムの医療関係者に足こぎ車いすの良さを知ってもらおうと、理学療法士の青年海外協力隊が活動する病院を回ることに。現物を見せると、医療スタッフも患者さんも関心が高く、積極的に試してくれた。「ベトナムの人は、良いものは良いと受け入れてくれる。車いすで部屋を一周する患者さんの笑顔を見た時は感動しました」と渡邊さん。一人では動けないと思

っていた人が、自分の力で動けるようになる。それが彼らの大きな自信につながると思った瞬間だった。

現在は、訪問先の一つだったバクマイ病院で、リハビリのメニューの一つとして足こぎ車いすを取り入れてもらい、機能回復の効果を調査している。「1週間使っただけでも、寝返りを打てるようになった。歩ける距離が長くなったなど、日常生活の動作に改善が生まれています」と鈴木さんはうれしそうに話す。

次の目標は、この効果を全国に広めること。病院やリハビリセンター、コミュニティセンターなどに車いすを販売、またはリース契約しながら普及を目指す。

現在は台湾や日本で行っている足こぎ車いすの製造も、将来的にはベトナム国内に移し、コストを抑えていく計画だ。「フレームの素材を現地で手に入る安いものに変えるなど、ベトナムモデルを開発し、障害を持つ人々に生産を担ってもらいたい」と鈴木さんは展望を語る。

「この車いすがあれば、孫と一緒にカフェに行ってコーヒーを飲むわ」。そう笑顔で話してくれた女性がいた。もう一度、自分の力で動ける喜びを。足こぎ車いすがベトナムの人々の希望の光となっている。

